

平成 23 年度花き産業振興総合調査「グリーンの効用を活かしたスペースづくり事例調査」

グリーンを活かした取組事例集

平成 24 年 5 月

花き産業・施設園芸振興室

目次

		頁
○はじめに		…… 1
○事例紹介		
1. 大阪市街地開発株式会社	大阪府大阪市	…… 2
2. エスペック株式会社	大阪府大阪市	…… 3
3. YMCAとつか乳児保育園	神奈川県横浜市	…… 4
4. 国土緑化株式会社	東京都江戸川区	…… 5
5. フューチャーアーキテクト株式会社	東京都品川区	…… 6
6. 株式会社翔栄クリエイト	東京都新宿区	…… 7
7. ロイズ・ジャパン株式会社	東京都千代田区	…… 8
8. 中央電力株式会社	東京都千代田区	…… 9
9. 株式会社パソナグループ・アーバンファーム	東京都千代田区	…… 10
10. 株式会社オールウェイズ	東京都千代田区	…… 11
11. コクヨファニチャー株式会社	東京都港区	…… 12
12. 株式会社アイデアインターナショナル	東京都港区	…… 13
13. 汐留地区街づくり連合協議会	東京都港区	…… 14
14. 株式会社パーク・コーポレーション	東京都港区	…… 15
15. コビープリスクールかみめぐろ	東京都目黒区	…… 16
16. 株式会社グリーン・ワイズ	東京都多摩市	…… 17
17. 有限会社あきゅらいず美養品	東京都三鷹市	…… 18
18. 成田国際空港株式会社	千葉県成田市	…… 19

19. 千葉大学医学部付属病院	千葉県千葉市 20
20. 青山フラワーマーケット ティーハウス	東京都港区 21
21. イオンレクタウン kaze	埼玉県越谷市 22
22. スウォッチグループジャパン株式会社	東京都中央区 23
23. 医療法人鉄焦会 森の里病院	神奈川県厚木市 24
24. 第一生命 東戸塚教育センター	神奈川県横浜市 25
25. 株式会社アスロニア	東京都渋谷区 26

はじめに

花や緑には、「心を癒やす」、「季節感がでる」、「室内が華やぐ」、「心が豊かになる」といった様々な魅力があります。加えて、色や香りなどによる様々な身体や精神面に対する効用、緑地帯や屋上緑化・壁面緑化等によるヒートアイランド現象の緩和効果、観葉植物等によるシックハウスの原因となる化学物質の吸収等の機能があることが知られており、科学的データの蓄積も進んでいます。

一方、現代社会はストレス社会とも言われ、日常生活の中でストレスを受けやすくなっております。このような中、花や緑が持つ「ストレス緩和効果」、「コミュニケーション形成」、「空気清浄」といった効用が期待されております。

本事例集は、花や緑の多様な効用に着目し、特に室内の職場環境等における緑化の取り組みについて、調査しました。調査は花き関連団体等を通じて、オフィス、病院、商業施設、児童施設等の25箇所を対象に実施しました。調査の結果、緑化の取組は室内の装飾だけではなく、室内環境の改善や職場環境の向上、コミュニケーションの促進等の効果があることが分かりました。これから、社内等で緑化を始めようと考えている方々の参考になれば幸いです。

今後、本事例集も参考にさせていただき家庭や職場など生活の様々な場面で花や緑が取り入れられることにより、生活に潤いと安らぎを与えられ、国民生活が向上し、ひいては花きの需要拡大にもつながることを期待しております。

平成24年5月

農林水産省生産局農産部園芸作物課花き産業・施設園芸振興室

格調高いデザイン性地下街！！

大阪市街地開発株式会社

1. 背景

大阪市街地開発は建築物の管理・運営を行い、関連する施設の建設・経営を行うことにより市街地開発の円滑なる促進に寄与している。

ディアモール大阪は平成7年創設時に施設の印象を良くするため、また無機質さの改善を図るためにグリーンを導入。

イタリアの街並をデザインモチーフとした格調高い景観と空間の中をグリーンと一体化させ、ライフスタイルを求めるOL・ビジネスマンに癒しの場として提供したいと考えている。

2. 特徴

グリーンは主に地下街の壁面上に設置され、施設の景観を良くしている。

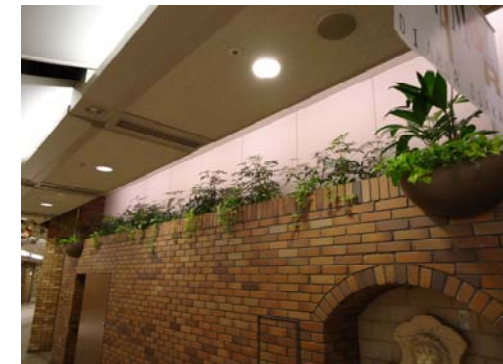
地下街南側には吹き抜けの上部から垂れ下がる様に、地下街東側には複数の植込みが連なる様にセンス良く、目にも優しい色調で設置した。

各場所に、多種類のグリーンを配置することで通行者の目を飽きさせない工夫もしており、歩いていても心地よく、優しい気持ちになれる。

グリーンは施設の備品のひとつという扱いであり常に景観が良く、お客様の憩いの場となるように考え、提供したいと心掛けている。



【地下街南側】



【地下街東側】

管理方法：業者
一年間の入れ替え回数：1～3回
手入れをしている人：委託業者
月に数回手入れをしている。
※日々の水やりは自動で給水されている。

緑化促進運動を取り入れ、環境問題を考える

エスペック株式会社

1. 背景

大手環境試験器等企業であり、環境問題に早くから関心を持ち続けてきたエスペックは、都市緑化や自然再生など生物多様性の保全に向けても取り組み、緑化促進活動も行っている。

昭和58年、本社ビル建設時からグリーンを導入。

環境改善や職員のストレス軽減、コミュニケーションの形成・促進を期待しビル出入り口や通路脇等、細かな場所にもグリーンを配置している。

2. 特徴

本社ロビーには、植え込みのグリーンと社名の表記もあり、会社の象徴となっている。奥には高さ5メートルの木がずっと構えていることが特徴的。ほとんどのグリーンが植込みにしてあり、オフィスと緑が一体化しているようなデザインとなっている。

また、会社全体で緑化運動を取り入れ、環境問題への取り組みも高く評価されている。

『エスペックみどりの学校』を創設し、つる性の植物をつかった「みどりのカーテン」で地球温暖化防止の活動、保育園等の施設にみどりのカーテンを寄贈、社員の手で2～3年生樹木苗を植え、土地本来の潜在自然植生を利用した「ふるさとの木による、ふるさとの森づくり」の実践環境問題にも取り組んでいる。



【出入口正面】



【ロビー奥にある植木】

管理方法：施設
一年間の入れ替え回数：1～3回
手入れをしている人：専任の職員
※大がかりな作業になる時は他の職員も手伝う。

グリーン化が園児の成長に！！

YMCA とつか乳児保育園

1. 背景

YMCA とつか乳児保育園では、キリストによって示された愛と奉仕の生き方を求め、「子供が笑顔で生活できること」をモットーに地域社会に深く根ざした運営をしている。

元々は屋外にレンタルとしてグリーンを借りていたが、開園数年後から室内にもグリーンを導入し始め、徐々に増やしていった。また、保育園の職員が育てたものを持ち込んだりもしている。



【ポトス・オリヅルラン】

2. 特徴

保護者、園児からよく見えるカウンターの上にポトスやデンドロビウムを置くことで、「綺麗ですね」「この花はなんですか」などという会話が生まれることが多くなった。また、この保育園は乳児（2歳迄）だけだが、ある程度大きくなると指差し等をして、「カワイイ」「キレイ」等という言葉が出ることもあり、園児にとっても良い刺激になっている。

園児とグリーンが共存できるように割れやすい鉢ではなく、プラスチックを使用するなどの工夫もしている。

グリーンを配置したことで、園内の装飾・室内環境の改善にも繋がった。

園内のグリーンは、日が当たらない室内でも育ちやすい観葉植物がメインのため、園児達にも育てやすく、植物と触れ合うことによって植物を育てることへの興味が出て、様々なメリットがある。



【デンドロビウム】

管理方法：施設にて管理
一年間の入れ替え回数：1～3回
手入れをしている人：施設職員
児童・園児
※季節ごとに購入しているが基本的には今ある植物を育てて増やす。

季節感をグリーンで感じるオフィス

国土緑化株式会社

1. 背景

国土緑化は総合緑化事業としてレンタル・販売・メンテナンス・造園作りなど、グリーンを総合的に扱っている。

いち早く“緑による文化の創造”を理念に緑の普及を通じ、ゆたかな心と環境の創造に取り組んできた。平成18年頃から事業を象徴するものとして、植物の効用を期待して等の理由から社内にグリーンを導入。社員の中でもリラックス効果を感じる他に、愛着や心の拠りどころにもなっている。

2. 特徴

春には春の植物を、夏には夏の植物を、といった季節感を表すような木を選定し演出している。打ち合わせスペースにもグリーンが配置され、お客様の目を引き、話が盛り上がり滞在時間を延ばすことで商談も有益なものとなっている。

社員の個人デスクには一人につき一鉢置くこととしているが、新入社員が育てる草花は、他の社員が育てるものとは明らかに差がつく。そのため新入社員の植物への価値観・思いに変化が見られる等の効果もあがっている。



【正面入り口】



【打ち合わせスペース2階】

管理方法：施設
一年間の入れ替え回数：6～10回
手入れをしている人：施設職員
※植物は季節ごと、傷み具合、行事等で交換。

バリの高級リゾートを意識したエントランス

フューチャーアーキテクト株式会社

1. 背景

フューチャーアーキテクトは、コンサルティングサービスを提供している企業であるが平成17年オフィス開業時、エントランスを癒しや安心などホッとできる空間にしたいとグリーンを導入。無機質なエントランスに比べ、温かな気持ちになれるデザインにした。オフィス環境に関する様々な賞を受賞しており、対外へのアピールにもなっているため社員のモチベーションアップにも繋がっている。



【エントランス中央】

2. 特徴

バリのリゾートを意識し、デザイン・設置をした。その中で広い植込みと共に壁面に水を流したりBGMを流したりと工夫を凝らし、お客様にも社員にも心地良い作りを演出した。

季節ごとに入れ替えを行っているため、四季を感じることができ、イベント時にはその内容に合わせて入れ替えを行うなど、植物の変化を楽しむことができる。また、日当たりを考え照明を強くしたり、前から順に高さを変化させたりといろいろな工夫がみられる。

エントランスのグリーンが社の象徴のとして活かされている。



【エントランス】

管理方法: 施設
一年間の入れ替え回数: 4~6回
手入れをしている人: 施設職員
※グリーンへの植え込みにも一工夫し、見せるデザインになっている。

デザイン性のあるグリーンでリラックス効果を！！

株式会社翔栄クリエイト

1. 背景

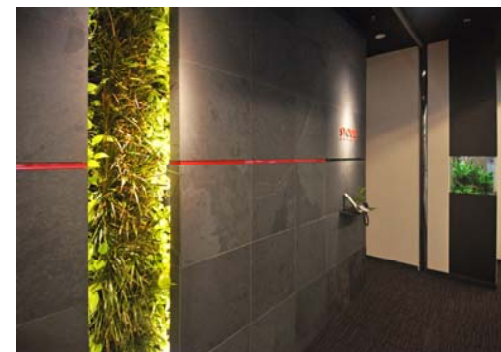
翔栄クリエイトはオフィスデザイン・オフィス施工等の一連の業務をワンストップで行っている企業であり、オフィス環境の向上を目的に以前からオフィスにグリーンを導入していた。平成22年移転時に更に導入を進めた。社内の壁や天井等様々な場所に、多種類のグリーンをバランス良く配置し、お客様の目を楽しませるスペースになっている。

2. 特徴

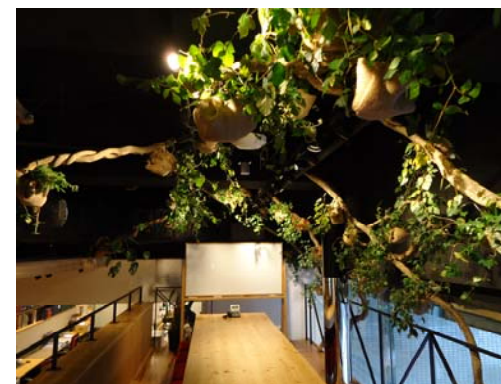
エントランスの壁面緑化のライムポトスは、高さ3m。エントランスのアクセントにもなっている。会議スペースでは、頭上に張り巡らされた流木にグレープアイビーの苗を30個から40個も配置。デザイン性が高いだけでなく、天井一面にグリーンがあるためリラックス効果があり、会議の活性化効果が感じられるようになった。

社内ではグリーン成長状況についての会話もうまれ、より豊かなコミュニケーションの形成・促進にも繋がってきている。

設置以降、夏には視覚的にも体感的にも涼しさを感じられるため節電にもなり、エコにも効果をあげた。



【エントランスのライムポトス】



【会議スペース】

管理方法: 業者委託
一年間の入れ替え回数: 1回
手入れをしている人: 業者委託・社員
※管理業者が月2回手入れをしている。日々の簡単な手入れは職員が行っている。

モダンと自然（緑）の調和を考えて

ロイズ・ジャパン株式会社

1. 背景

200以上の国および地域で保険事業を展開しているロイズの子会社であるロイズ・ジャパンは、平成8年、オフィスを開設した当初からグリーンを導入。

社内環境の改善、植物の効用を期待しており、社員の中には視覚疲労の緩和、リラックス効果を感じる者も増え、効果がでている。

植栽に興味を示したり、グリーンが変わる度、名称を聞いたりグリーンに対する社員の意識も変化しつつある。

2. 特徴

高層ビルの38階にあるオフィス内は白を基調とし、清潔感溢れるエントランスにグリーンがよく映え、心地よく来客者をもてなす印象を与えている。

選定されたグリーンは見た目・バランスも考えられ、センスの良さが覗える。執務スペースにもグリーンを配置し、無機質なオフィスにアクセントとして風合いを出した。

モダンと自然の調和を考え、風合いのコンセプトにグリーンが上手く活用されている。



【エントランス】



【38階にあるオフィス内】

管理方法：業者委託
一年間の入れ替え回数：4～6回
手入れをしている人：業者委託及び施設職員
※鉢のサイズ、高さも全て統一されている。

電気と環境の調和

中央電力株式会社

1. 背景

電カインフラ事業を展開している中央電力は、平成22年9月のオフィス移転時に、オフィスのレイアウト設計段階からグリーン配置を軸に設計。新入社員を中心とした社員教育、社員と植物の関わり、リクルート面での効果を期待してグリーンを導入した。

2. 特徴

社内に入るエントランスには、社名サインの上部に壁掛けプランターがある。清潔感溢れるエントランスであり、グリーンとの調和も図れている。エントランス左側受付部分には、緑豊かで非常に明るい印象を施した。来客者の緊張を和らげる雰囲気となっている。

当初はグリーン設計をした委託業者に管理・維持を依頼していたが、平成23年5月にグリーンメンテナンスを通じて心豊かな魅力溢れる社員を育てる目的に「グリーンと共に成長しますプロジェクト」を立ち上げ、それを機に社員全員で自主的に管理・維持を行っている。その結果、コミュニケーションの活性化、新入社員の教育、声掛けやみんなで考えたグリーンを中心としたプロジェクトの効果が確実にあがっている。



【エントランス】



【受付】

管理方法：自社
一年間の入れ替え回数：1～3回
手入れをしている人：社員
※管理エリアを決め、社員自らが管理している。

“自然との共生”をコンセプトに

株式会社パソナグループ・アーバンファーム

1. 背景

様々な人材サービスを提供しているパソナグループでは、平成22年に新事業として“自然との共生”をコンセプトに、「社員と健康」「農業」「環境(エコ)」を考えたオフィスを設立。社内に点在しているグリーンは、社の事業の一環として設置しており、都会にいながら春夏秋冬を感じることができる癒しの空間を提供している。植物だけではなく果物や野菜も育てているため、各種のグリーンを目で楽しむだけではなく、収穫することにより、その感触や味を楽しむことができる。

2. 特徴

正面入口は、上部に水耕栽培でキュウリを栽培。奥には収穫された稲穂が見える。その他にもトマトや豆等、色とりどりの野菜を育て、社内で収穫された作物は社員食堂で食することができる。栄養のバランスも考え、社員の満足度アップにも繋がった。

天井や壁には80種類以上の果樹・野菜が育ち、ベランダ・外壁では200種以上の植物が季節ごとに咲き誇り、どの場所に足を運んでもグリーンが感じられる配置となっている。一般見学も行っており、訪れたお客様は一樣にその館内の様子に驚き、お客様同士、お客様とスタッフの間でコミュニケーションの促進にも役立っている。



【正面入口】



【通路】

管理方法：施設・業者
一年間の入れ替え回数：13回以上
手入れをしている人：施設職員
95%、業者5%ほどの割合で
管理。
※他、自社で育成している。

ハイセンスでグリーンとの共和

株式会社オールウェイズ

1. 背景

健康設計システム関係の人材派遣を行うオールウェイズは、社員の福利厚生の一環として、快適に仕事ができるような職場作り、無機質なオフィスの環境を改善する一環として平成23年頃、グリーンを導入した。

2. 特徴

多種類のグリーンを社内の至る所に配置しており、どの場所に居ても、どの席に座っていても自然と目に入り癒される。

オフィス中央にあるメインツリーは、とても存在感が感じられ、社内の雰囲気を変える大きな役割を担っている。自然にグリーンを取り入れようと、アクセントに各本棚上部にもグリーンを配置。本棚上部は視界に入りやすく、目の保護として十分な効用を発揮している。

社長室入口に置かれている植栽は、鉢の色合いも社内の風合いにマッチさせており、自然に違和感なくグリーンを取り入れることに成功している。

従業員に気持ち良く仕事をしてもらうためにグリーンを導入したが、結果的には、装飾としても期待以上の効果がでている。



【オフィス中央のメインツリー】



【社長室入口】

管理方法: 業者
一年間の入れ替え回数: 10~12回
手入れをしている人: 業者委託
※入れ替えは毎月行っている。

「エコ+クリエイティブ」を両立するオフィスを提案

コクヨファニチャー株式会社 コクヨ株式会社 エコライブオフィス品川内

1. 背景

エコライブオフィス品川は「エコ」「クリエイティブ」の両立(CO2を削減しながら働く人のエコ意識と生産性が高められる)をコンセプトとし、自らのオフィスを使って実践し続ける中で提案を生み出していき、実験オフィスである。

商品企画や空間提案などに関わる仕事を行っているため、クリエイティブな発想を生み出すためのオフィス環境づくりや空間コンセプトとしている「エコ」を体現するデザインの要素の1つとして、グリーンを導入した。

オフィスの様々な場所に多種のグリーンを取り入れ、社員のリフレッシュ・職場環境の改善等の効果も期待している。

2. 特徴

地球温暖化防止という目標を掲げ、オフィスのコンセプトテーマとしてエコを意識して設計したが、グリーン配置は重要な要素となっている。

オフィス中央の4m×4m、高さ3mにもなるインパクトのある大きな植込みは来訪者から評判が良かったため、象徴的な存在となっている。オフィス奥に設置された壁面緑化は自然に目に入り印象強いため、無機質なごく一般の壁では得られない視覚的効果を生みながら、オフィスのゾーニングの目印としての役割も果たしている。

グリーンをはじめ様々な形で、四季を身近に感じながら働くスタイルにより、社員が自発的に、かつより創造的にエコを実践できる仕組みを取り入れたオフィスづくりとなっている。



【中央に設置された植込み】



【オフィス奥に設置された壁面緑化】

管理方法: 施設

手入れをしている人: 業者委託
※痛んだ場合はその都度入れ替えしている。メンテナンスは毎日業者が行っている。

グリーンをインテリアの一部として

株式会社アイデアインターナショナル

1. 背景

インテリア等の商品・サービスの展開を行っているアイデアインターナショナルは、「企業理念を象徴・発信・共有するための空間」「コミュニケーション活性化」「安らぎと刺激が共存する空間」という3つの要素を機軸としたオフィス空間をつくるために、平成21年からグリーンを導入した。

2. 特徴

会社の象徴であるエントランスに壁を覆うように茂った壁面緑化は、「室内向け壁面緑化システム」が採用されている。導入当時はまだ実例の少ない取り組みであった。壁面緑化は珍しくインパクトもあるため、来訪者の評判も良い。

日に数回ある水遣りは自動的に調整され、水の流れる音は癒し効果を感じることができる。

オフィス内は、温かな印象を与えるフローリングに窓から差し込む日差しによってグリーンが彩られ、とても柔らかな印象で社員のモチベーションの向上に繋がり、雰囲気明るくなったといえる。オフィスの緑がきっかけとなり、商談がスムーズに進む効果も期待できるようになった。

インテリアを扱っている会社ということもあり、グリーンが社内の装飾の一部となり、インテリアの一部としても活用されている。



【エントランス】



【デスク中央に設置】

管理方法: 業者委託
一年間の入れ替え回数: 1~3回
手入れをしている人: 委託業者
※毎日業者が手入れを行っている。

大都会の地下にいやし空間

汐留地下歩道内 汐留地区街づくり連合協議会

1. 背景

汐留地区街づくり連合協議会は、自然との共生のもとに“安心して安全で潤いのある街”とするために、地元住民が主体となって設立された組織である。

汐留地下歩道内も、次世代型の都市空間を目指して、“柔らかい公園都市” 緑あふれる豊かな環境デザインを創出したいと、平成16年頃からグリーンを導入した。

2. 特徴

汐留地下歩道のポイントポイントに花木を植栽しており、季節に応じて植え替えられている。歩行者も植物との距離が近い為、ストレスの緩和に役立っている。

植えられている花木は季節によって変化を楽しむことができるようになっており、どれも前面に土を敷いているのではなく、ピンポイントに植栽しているので見た目が綺麗に感じる。

無機質でコンクリートに囲われた地下歩道の空間にグリーンがあることは、柔らかい雰囲気を作り出し、歩行者への目の保養にもなり、隣接のビルからの評価もよい。地下歩道の上は大都会のオフィス街であり、仕事の疲れを感じながら電車に乗る前にホッと一息つける空間を作り出している。



【汐留地下歩道①】



【汐留地下歩道②】

管理方法: 業者
一年間の入れ替え回数: 10~12回
手入れをしている人: 業者委託
※毎月交換。

Living With Flowers Everyday！！

株式会社パーク・コーポレーション

1. 背景

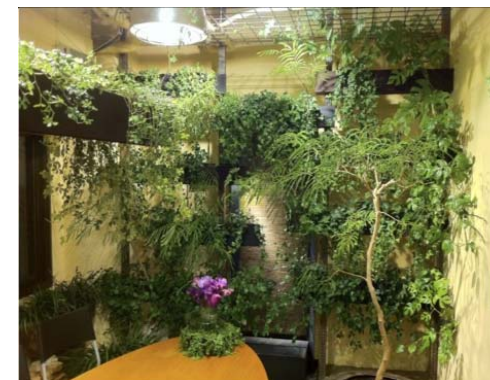
生花販売等を行うパーク・コーポレーションの本社には、グリーンや花の導入を検討される法人のお客様もよく来社されるため、オフィスでグリーンがどう調和しているかを実際に見て・感じて頂くために平成19年頃から導入した。

2. 特徴

都内などには緑地が少ないことから、「室内に公園を！」をコンセプトに“インドアパーク”を提案。本社オフィス内は、インドアパークの考え方がふんだんに盛り込まれたグリーン配置となっており、ストレス緩和やコミュニケーションの促進など様々な効果を生み出している。

導入を検討されているお客様には、インドアパークを実体験していただく場として、来客者には花木本来の効能や楽しみを感じていただく場となっている。

社員が担当制でグリーンを管理・維持することにより、花木の知識・ノウハウが蓄積され理解が深まる。更に効能を実体験することで、自分の言葉で花木の良さを伝えることが出来るようになり、結果、お客様に喜んで頂くことに繋がっていると考えている。



【森のせせらぎをイメージした壁面】



【メインテーブルのディスプレイ台】

管理方法：施設
一年間の入れ替え回数：1～3回
手入れをしている人：施設職員
※定番のグリーンは店舗スタッフが日々管理・維持を行っている

自然と中で伸び伸びと・・・。

コビープリスクールかみめぐろ

1. 背景

生後8週目からの乳幼児をあずかる保育施設のコビープリンススクールかみめぐろは、『次世代の人々へ美しい地球の継承に努める』という経営理念があることから、施設の立ち上げ時に合わせてグリーンを導入した。



【柱に設置された壁面緑化】

2. 特徴

園庭がないこともあり、室内にグリーンを置いたが壁面緑化は柱のような形にするなど工夫して設置している。園児達が、より広々と過ごせるようにとの考えだ。

また、室内の日当たりが悪い場所であるが光合成ライトを当てており、グリーンが成長する。それに対し園児達も関心を示し、友達同士・保護者・見学者などのコミュニケーションに繋がっている。

園児達はグリーンとのふれあいを通じて豊かな感性を表現できるように成長する。都心の真ん中にある保育施設だがグリーンを身近に感じれ、子供達の落ち着く空間となり、明るい雰囲気の間となっている。



【通路の壁掛】

管理方法:業者
一年間の入れ替え回数:1~3回
手入れをしている人:業者委託
※園児の事を考え、常にキレイに保てるように、管理は業者に任せている。

変化やコミュニケーションを楽しむ！

株式会社グリーン・ワイズ 本社

1. 背景

総合的な緑化事業に取り組むグリーン・ワイズは、インドアの空間緑化においても企画・デザイン・演出・販売等、あらゆる角度からグリーンを提供している。

施設のイメージ、職場環境の改善、植物の効果・効用を期待して、本社施設にも各種のグリーンを導入した。全ての執務スペースにグリーンを配置し、中でもエントランスロビーはコミュニケーションの場として、同時にグリーンのショールームとしてお客様の目にとまることを考えた設置を心掛けている。



【エントランスロビー①】

2. 特徴

エントランスロビーには花や実がつく木を選定している。花の場合は蕾ができて花が咲く、実の場合は大きくなり色がつき変化を楽しむことができる。それはコミュニケーションのきっかけとなり、お客様とスムーズに会話ができ、和やかに話が進み、時には質問される等、お客様との会話の架け橋という役割を果たしている。低温度だと育たないバナナについては温室で実をつけ、エントランスロビーを使用するとき、移動をさせ勧賞してもらう等の工夫もしている。社員同士間でも各植木鉢に担当が決まっていて、水のやり方・手入れ法等、育てる環境の中で試行錯誤しながら仲間意識の向上を図っている。

変化やコミュニケーション等の目的意識をもってグリーンを活用している。



【エントランスロビー②】

管理方法：施設
 一年間の入れ替え回数：1～3回
 手入れをしている人：施設職員
 ※鉢が移動式のため、いろいろな
 パターンの空間造りができ、用途に
 合わせられる。

『森のような会社』をコンセプトに・・・。

有限会社 あきゅらいず美養品

1. 背景

あきゅらいず美養品はスキンケア商品の企画開発、製造及び販売を行っている。

『森のような会社』をコンセプトに据えている。森にはたくさんの異なる生命体が共存していることから、その森のように様々な個性をもつ者同士が尊重し合い、生活を送ることが幸せな環境だと考えている。

平成22年、三鷹にオフィスを移転した。『森のような会社』に相応しいように、見た目の印象や植物の効用、そして環境のことを考え、多種多様の緑を導入した。

2. 特徴

外部エントランスの緑は『森』というコンセプトをイメージしたものであり、オフィスにお越しになったお客様の安心感と心地よさを重視して構成されている。

社内には「緑化委員会」がある。このメンバーを中心に管理や手入れをしており、それ以外にも活動内容や取り組みの発表をスタッフやお客様に向けて積極的に行っている。この活動を続けることにより、社内において緑を取り入れることに対する意識が向上した。それ以外にも、緑についての会話を通してコミュニケーションの活性化にもつながり、スタッフ同士の距離が近くなり仕事のしやすい環境作りにも役立っている。



【応接エリア】



【室内】

一年間の入れ替え回数: 4~6回

手入れをしている人: 会社スタッフ

※緑化委員会のメンバーが中心

日本の空の玄関に緑化を！！

成田国際空港株式会社

1. 背景

成田空港は開港より30年以上日本の代表的な空の玄関口として運用されており、年間旅客数は羽田空港に次ぐ2位で、2800万人を超える。(2011年運用状況(暦年)実績)

国際空港として、日本を訪れた方に、日本文化を感じていただくため、温かみのあるグリーンにより日本の四季を表現している。

2. 特徴

1978年の開港当時より、旅客ターミナルビルのグリーン化に力を入れており、日本の季節をモチーフとした内容の植栽に毎月入れ替えを行っている。

代表的なものとしては、人通りの多い第一旅客ターミナルビル4階中央のスロープやエスカレーター部分があげられるが、メインのグリーンと同一のコンセプトで装飾されている。また、出発ロビーに置かれた花木は動線の仕切りとしての役割も担っている。

成田空港は、日本の四季の他にも日本を訪れる方に温かみのある、日本の伝統・文化を感じていただけるデザインや造りに“おもてなしの心”を込めて今日もお客様をお出迎えしている。



【1階到着ゲート正面】



【4階中央のスロープ部分】

管理方法: 施設
一年間の入れ替え回数: 10~12回
手入れ担当: 業者委託
※コーディネート全体を一括委託しており、季節に合わせたものを取り込んでいる。

グリーンの設置と安全性とのバランス

千葉大学 医学部附属病院

1. 背景

千葉大学医学部附属病院は、病床数835床、1日平均外来1946人の大学病院で、患者の意思を尊重し安心・安全な医療を提供するとともに先端医療の開発や将来を担う優秀な医療人の育成を行っている。

グリーンの導入は平成20年頃からで、一般社団法人同仁会から開院のお祝いとして頂いたのがきっかけだが、病院建設の為に森林伐採していることもあり、院内にグリーンを置くべきだと考えた。



【廊下に置かれたグリーン】

2. 特徴

廊下の窓際に置かれたグリーンは患者の心の癒しとなっている。ラウンジに置かれたグリーンは部屋の隅に置かれたもので、入院患者に邪魔にならないよう配慮されている。

しかし、東日本大震災以降は安全性の視点から撤去したグリーンも多く設置箇所が限られている。患者へのストレス軽減に効果を認めている一方で、現場からの危険であるという意見もあり、院内でのグリーン設置については見直しを行う必要性についても考えている。



【ラウンジに置かれたグリーン】

管理方法: 業者委託
一年間の入れ替え回数: 4~6回
手入れをしている人: 委託業者
※院内各所のグリーンがあり、どこに居てもリラックスができる。

旬の花による季節感を味わえるカフェ

青山フラワーマーケット ティーハウス

1. 背景

青山フラワーマーケットティーハウスは、空間いっぱい広がるグリーンを売りにしたカフェである。カフェにはくつろぎたい方、集中したい方、コミュニケーションを図りたい方など、いろいろな方が来店される。グリーンや花の多様な効用を、ぜひ体験してもらいたいという願いを込め、グリーンを多種類導入した。

2. 特徴

主に都市部で生活している方々への癒しの空間(花と緑に囲まれた時間)を提供するために、「温室」「水の音」「食材」「ハーブティ」「オブジェ」をコンセプトに打ち出したカフェである。

全国に77店舗のフラワーショップを展開しているパークコーポレーションが運営しているということもあり、様々な花や緑を店内に装飾。週替わりでレイアウトされた旬の花による季節感を、飲食しながら楽しむことができる。

グリーンや花の効用をより身近に感じて頂くため、生花を生産・育成する温室内のイメージを創り出す工夫が店内随所に施されており、ヒーリング効果を高めている。

植物の価値を知るスタッフがお客様にその良さを伝える＝顧客満足度の向上にも繋がっている。



【客席エリア】



【壁面プランター：ポトス】

管理方法：施設
一年間の入れ替え回数：1～3回
手入れをしている人：施設職員
※グリーンは店舗スタッフ、切花に関しては本部スタッフが行う。

お客様に癒しの空間を提供！！

イオンレイクタウン kaze

1. 背景

イオンレイクタウンは『kaze』と『mori』との自然を意識した2つの街区からなる。

敷地面積264,000m²(約570店舗)という広大なショッピング空間に、環境に優しい工夫や自然との共存をメインとしたイメージ、コミュニケーションの場の提供を目的としてグリーンを導入した。

2. 特徴

開店当初、店舗周辺の植栽は地域住民の人々の協力で作り上げ、地域のコミュニケーションの促進にも繋がった。

3階のエスカレーターを上ると、エレベーター周辺の明るい雰囲気とグリーンが、お客様を出迎えているかのような空間になっている。ベンチの周りはせり出してくるようにグリーンが植えており、一体感が味わえる作りになっている。

透明天井からは差し込む光とグリーンの調和がマッチングしており、明るく落ち着いた風合いを出し、そこにいるだけでお客様の気分も明るくなるのではないかと考えている。



【エスカレーター部分正面】



【エスカレーター部分裏手】

管理方法: 業者委託
一年間の入れ替え回数: 1~3回
手入れをしている人: 業者委託
※レンタルのグリーンは年に3回入れ替えしている。

軽快な壁面緑化

スウォッチ グループ ジャパン 株式会社 ニコラス・G・ハイェックセンター内

1. 背景

スイスを本拠地とする世界最大の時計製造グループであるスウォッチ グループは、「スイスをイメージさせる自然や渋谷を感じられる緑と一体化になった建築を」と、グリーンを導入。

1階エントラスや打ち合わせスペース等は人々のアクティビティと一体となるようなグリーンを演出した。

2. 特徴

アベニュー・ドウ・タン「時の道」と題された解放感あふれる1階エントランスのグリーンは、高さ13.8m。壁面をただ覆うのではなく、棚自体を背面の壁から離し、浮きと浮遊感を演出してグリーンに軽快感を与える構造を工夫し、単なる壁面緑化ではない庭としての質を高めた。

通りからも望むことができるため、通行者も足を止めてしまうぐらいのインパクトがある。

夜になるとグリーンが照明でライトアップされ、昼間とは違うロマンティックな光景が現れる。

銀座という都心に彩りを与え、コミュニケーションの促進や施設の印象・環境をより良くするためにも役立っている。

(建築意匠設計:坂茂建築設計、植栽計画:オンサイト計画設計事務所)



【銀座通りから望む壁面緑化】



【釣り構造のプランター配置】

管理方法: 施設
一年間の入れ替え回数: 4~6回
手入れをしている人: 業者委託
※全体の1/4を1年で交換及びメンテナンスをしている。

リハビリの痛みをグリーンで軽減

医療法人鉄蕉会 森の里病院

1. 背景

緑豊かな森の中にたたずむ森の里病院は整形外科を中心とし、リハビリにも力を入れている。

リハビリは訓練なのでなかには痛みを伴うものもあるため、患者さんのつらい気持ちを軽減させたいと病院長がグリーンの導入を提案。落ち着いた環境、マイナスイオンの発生、患者さんからの見た目、リラックス効果も期待して院内に多数のグリーンを配置することになった。

2. 特徴

敷地内にあるリハビリルームをジャングルドームと呼ぶ。ドーム内には2m以上のリング状の植栽柵が天井から吊るされ一際目立つ。多種のグリーンがセンス良く飾られ患者さん達の目と心を和ませている。

リハビリに力を入れているこの病院は、人間のリハビリだけではなく枯れかけているグリーン・不要になったグリーンを見事に生き返らせるグリーンのリハビリにも力を入れた。

月に一度玄関前で患者さん等に配り、再生化を図ると共にコミュニケーションにも役立っている。

患者さん、グリーンのどちらにも優しく大切に思う気持ちが伝わってくる、温かな病院である。



【2m以上の植木柵】



【グリーンのリハビリセンター】

管理方法: 業者委託
一年間の入れ替え回数: 4~6回
手入れをしている人: 委託業者
※院内各所のグリーンがあり、どこに居てもリラックスできる。

研修センターの顔・10mのシンボルツリー

第一生命 東戸塚教育センター

1. 背景

第一生命 東戸塚教育センターは研修そして仲間との交流によって多くを学び、意欲を高める場として一人ひとりの可能性を広げる空間造りを心掛けている。

平成4年新設時から緊張感を和らげクールダウン・リフレッシュ、研修後の頭の切り替え、目の疲れをとる効果を期待してたくさんのグリーンをとり入れた。

新館内にあるアトリウムはギリシャ神話に出てくるような宮殿の中庭を感じさせ、グリーンでより一層落ち着いた雰囲気と安らぎを与えている。

2. 特徴

アトリウム内のグリーンは国内外の多種な様な花木により存在感がある。

なかでも一番目につくのはクロガネモチというシンボルツリーで、10mの大木がアトリウムの真ん中に聳え立っているのは皆が驚かされる。どのように館内に入れたのか？どのように手入れをしているのか？そんな疑問が研修に訪れる社員同士のコミュニケーションのきっかけにもなる。

手入れ等に気を配り、大切に育て、守っていくことを社員一人ひとりが心掛けている。



【クロガネモチ】



【アトリウム】

管理方法: 業者委託
一年間の入れ替え回数: 4~6回
手入れをしている人: 委託業者
・毎週月曜日、滝が流れ音とグリーンの融合を楽しむことができる。

都心ながらも緑のある心地よいお店

株式会社アスロニア・アスロニアヴィレッジ

1. 背景

アスロニアはトライアスロンを軸とした色々なアイテムを取り扱っている。

店舗を平成21年に開店するにあたり、委託業者と入念に打ち合せをし、設計段階からグリーン配置を盛り込む。

店内は金属やコンクリート等の素材を基調としたデザインであるが、人工物と自然物の調和を図ることにより印象が柔らかくなるという効果を期待した。



【店内全体】

2. 特徴

都心ながらも穏やかな街並みの中に佇む店舗は、店内に入ると多種多様なグリーンが配置しており、緑のある心地よい空気が流れている。

ポトスライムを中心としたグリーンは天井吊りのリングやサイン上部等に配置され、来場者が気持ち良く、また心を癒される空間を演出した。

店舗のため、オブジェとしてアートとしての側面が強く、視覚的な楽しみも味わえる。

植物の入替えや定期的なメンテナンスは委託業者に依頼しているが、日々の管理はスタッフが協力して行っており、グリーンは非常に安定している。スタッフの大切に想う気持ちがグリーンにも伝わっていると感じられる。



【自然に包まれたレースの風景の演出をしている】

管理方法: 業者
一年間の入れ替え回数: 1~3回
手入れをしている人: 施設職員
※維持・管理・入れ替えは業者へ委託している。日々の水やりは、店舗スタッフが行っている。